

日頃からお世話になり、ありがとうございます。

先月から、中国の準軍艦が尖閣諸島周辺での領海侵入をしつこく繰り返しています。また、北朝鮮がミサイルをはじめて排他的経済水域に落としました。

安保法制が制定され、集団的自衛権を一部認めたからといって、魔法のように抑止力は高まりません。憲法改正も同じです。大風呂敷を広げるような話は、一般的にはわかりやすいかもしれませんが、本当に今必要な安全保障の政策をいくつか提言します。長期的にはより脅威である対中防衛に論点をしぼります。

1. 自衛権の発動要件を緩和

自衛権を発動して武力を行使するためには、次の3つの要件が求められます。①我が国に対する急迫（差し迫った）不正な侵害があること。②この侵害を排除するために、他に適当な手段がないこと。③必要最小限の実力行使にとどまること。

この3要件は、ソ連軍の本格的な侵攻を想定したものです。しかし、状況は変わり、中国は、もっと巧妙に我が国の離島などを支配しようとしているので、明確な「侵害」という事態は避けています。自衛権の要件に当てはまらないから、中国の準軍艦に対して、自衛隊ではない海上保安庁がその本来の能力を超える責任を背負わされているのです。

したがって、この自衛権の要件を緩和する議論を早急にすべきです。これは集団的自衛権より優先すべき個別的自衛権の問題であり、自主防衛の問題です。

2. 米国等との共同戦略・戦術を策定

もう一つは、**米国やほかの友好国と連携して、中国の脅威に対する戦略や作戦体制や危機対応策を練り上げるべきです。**漠然と日米同盟といっても、あまりにも頼りない。中国の「忍び足」侵略主義にどうやって対応するのか。尖閣諸島に中国軍が上陸した時にどのような作戦を展開するのか。沖縄が侵攻された時には、米国軍との役割分担はどうなるのか。こうした具体的な軍事行動にかんする詰めの作業が、まっただくなされていない現状では、あまりにも無防備です。

3. 「多くの友を作り、敵は少なくする」

中国は軍事大国になっており、一国では抑止力を効かせることができません。米国、東南アジア、オーストラリア、インドと共通の対中外交を推進することは、安倍政権でもすでに行われています。ただ、一方で、**中国・北朝鮮だけでもいっばいいいっばいのところを、テロ組織との戦いに不必要に足を突っ込むのは、愚の骨頂です。**米国と同盟だからといっても、なんでもかんでも安請け合いするのは、国益に反します。

「日本はアジア・太平洋でさらに役割を強化します。中東に対する軍事的関与は、基本的にはお任せします。」という方針を米国に明確に伝えるべきです。外交・防衛は、優先順位が肝要です。

以上、話し合いを続けながらも、やはり「備え」をさらに強化していくしか、国益を守る方法がありません。嫌な現実にも直視することが求められます。